

科目名	入院レセプト演習		担当教員名	小田原 香織		□ 実務経験							
学科名	医療情報		学科	3		単位数(時間数)	6単位(122時間)						
実施時期	4月	～	10月	授業形態	△	演習	○	実習		実技		○は主、△は併用	
教科書 及び参考書	診療点数早見表2020年4月版(医学通信社)／診療報酬請求事務能力認定試験受験対策と予想問題集2021前期版 レセプト作成マニュアル集2021 前期版(医学通信社)／医科サポートブック(ソラスト) 診療報酬請求事務能力認定試験最新問題と受験対策/実例問題集レセプト請求の全技術												
授業の概要とねらい													
診療報酬請求事務能力認定試験の実技問題演習(入院)を中心に行い、診療録に記載された医学用語等を理解し、診療報酬点数算定の知識を深める。また入院レセプトを90分以内に作成できることを目指す。													
到達目標													
診療報酬請求事務能力認定試験に合格する。													
授業計画													
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)										
診療報酬請求事務能力認定試験過去問題(試験説明)・①入院実技演習・解説		5	レセプトの算定留意点を演習の前に説明した後に演習を実施する。 入院レセプトを90分～110分で作成する。 閉鎖循環式全身麻酔や手術、医学管理の算定方法の留意点などを重点的に説明する。 確認テストを行う。採点後のレセプトを返却するので、間違った記述箇所については訂正をし、提出する。 課題レセプトを期日までに作成し、提出する。										
診療報酬請求事務能力認定試験過去問題②入院実技演習・解説		4											
診療報酬請求事務能力認定試験過去問題③入院実技演習・解説		4											
診療報酬請求事務能力認定試験過去問題④入院実技演習・解説		4											
確認テスト①		2											
診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑤入院実技演習・解説		4											
診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑥入院実技演習・解説		4											
診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑦入院実技演習・解説		4											
診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑧入院実技演習・解説		4											
確認テスト②		2											
診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑨入院実技演習・解説		4											
診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑩入院実技演習・解説		4											
診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑪入院実技演習・解説		4											
診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑫入院実技演習・解説		4											
確認テスト③		2											
診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑬入院実技演習・解説		4											
診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑭入院実技演習・解説		4											
診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑮入院実技演習・解説		4											
診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑯入院実技演習・解説		4											
診療報酬請求事務能力認定試験過去問題⑰入院実技演習・解説		4											
確認テスト④		2											
最新問題と受験対策①入院実技演習・解説		4											
最新問題と受験対策②入院実技演習・解説		4											
最新問題と受験対策③入院実技演習・解説		4											
最新問題と受験対策④入院実技演習・解説		4											
確認テスト⑤		2											
実例問題集レセプト請求の全技術入院①(左自然気胸、急性気管支炎)・解説		4											
実例問題集レセプト請求の全技術入院②(重症大動脈弁狭窄症)・解説		4											
実例問題集レセプト請求の全技術入院③(胆石性膵炎等)		4											
実例問題集レセプト請求の全技術入院④(腰部脊柱管狭窄症)		4											
実例問題集レセプト請求の全技術入院⑤(胃癌・B型肝炎)		4											
実例問題集レセプト請求の全技術入院⑥(川崎病等)		4											
確認テスト⑤		3											
合 計		122											
時間外学習について													
課題レセプトを作成し、提出する。 確認テストのレセプト記載ミス箇所については、訂正記入を行い、提出すること。													
成績評価の方法及び評価割合について													
確認テスト・定期試験の結果及び出席率と課題による総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は90点以上で尚且つ出席率100%をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。													
その他(科目と実務経験との関連性について)													

科目名	外来レセプト演習		担当教員名	長尾 雄二		<input type="checkbox"/> 実務経験					
学科名	医療情報	学科	学年	3	単位数(時間数)	3単位(60時間)					
実施時期	4月～10月	授業形態	講義	<input checked="" type="checkbox"/> △	演習	<input checked="" type="checkbox"/> ○	実習	<input type="checkbox"/>	実技	<input type="checkbox"/>	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	「診療点数早見表」 「受験対策と予想問題集」										
授業の概要とねらい											
診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト対策として実施する。また、医療機関への就職に向けてカルテの読み解き方やレセプト作成上の注意点を理解し、自ら診療点数早見表を調べてレセプトが作成できるよう学習する。											
到達目標											
診療報酬請求事務能力認定試験に合格する。											
授業計画											
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)						
外来レセプト演習1の説明、実施及び解説				3	外来レセプト演習1～5については診療報酬請求事務能力認定試験の対策授業を行う。カルテに記載された医学用語の説明や診療報酬点数表の算定の留意点などを重点的に教える。						
外来レセプト演習2の説明、実施及び解説				3							
外来レセプト演習3の説明、実施及び解説				3							
外来レセプト演習4の説明、実施及び解説				3							
外来レセプト演習5の説明、実施及び解説				3							
外来レセプト演習6の実施及び解説				2	自らが考えカルテを読み解きレセプトを書く。						
外来レセプト演習7の実施及び解説				2							
外来レセプト演習8の実施及び解説				2							
外来レセプト演習9の実施及び解説				2							
外来レセプト演習10の実施及び解説				2							
外来レセプト演習11の実施及び解説				2							
外来レセプト演習12の実施及び解説				2							
外来レセプト演習13の実施及び解説				2							
外来レセプト演習14の実施及び解説				2							
外来レセプト演習15の実施及び解説				2							
外来レセプト演習16の実施及び解説				2							
外来レセプト演習17の実施及び解説				2							
外来レセプト演習18の実施及び解説				2							
外来レセプト演習19の実施及び解説				2							
外来レセプト演習20の実施及び解説				4	就職に向けてさらに応用力を高める。						
外来レセプト演習21の実施及び解説				4							
外来レセプト演習22の実施及び解説				4							
外来レセプト演習23の実施及び解説				4							
合 計				60							
時間外学習について											
間違っている箇所について必ず確認を行い訂正すること。 復習を必ず行うこと。											
成績評価の方法及び評価割合について											
定期試験の結果及び出席率による総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満のものはD(不可)とする。											
その他(科目と実務経験との関連性について)											

科目名	診療報酬知識Ⅱ		担当教員名	小田原 香織		□ 実務経験	
学科名	医療情報	学科	学年	3	単位数(時間数)	2単位(40時間)	
実施時期	4月～10月	授業形態	講義	△	演習	○	実習
教科書 及び参考書	診療点数早見表2020年4月版(医学通信社) 診療報酬請求事務能力認定試験受験対策と予想問題集2021年前期版(医学通信社)						
授業の概要とねらい							
診療報酬請求事務能力認定試験の学科問題を読み解く講義と演習を行う。過去問題を繰り返し解き、誤答が多い問題について詳細な解説を行う。また講義を通して医療保険制度や療養担当規則、診療報酬の算定方法の留意点に対する理解を深めてもらう。							
到達目標							
診療報酬請求事務能力認定試験に合格する。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
学科問題模擬試験①・解説			2	診療報酬請求事務能力認定試験 受験対策と予想問題集から過去の試験問題を模擬試験形式で行う。 50分間(1コマ)で20問の問題を解くスピードを身に付ける。 【解説について】 過去問題集と点数早見表を使用しながら解説を行う。 問1～問4の医療保険制度と療養担当規則の分野の解説を集中的に行い、知識を深める。 誤答問題については、誤答の問題を再度早見表で調べ直し、正しい解説を早見表に記入する。 診療報酬請求事務能力認定試験前にはランダムに問題を抜粋した模擬試験を行う。 模擬試験の目標点は80点とする。目標に満たない者は追試を実施する。			
学科問題模擬試験②・解説			2				
学科問題模擬試験③・解説			2				
①②③ランダム模擬試験・解説			3				
学科問題模擬試験④・解説			2				
学科問題模擬試験⑤・解説			2				
学科問題模擬試験⑥・解説			2				
④⑤⑥ランダム模擬試験・解説			3				
学科問題模擬試験⑦・解説			2				
学科問題模擬試験⑧・解説			2				
学科問題模擬試験⑨・解説			2				
⑦⑧⑨ランダム模擬試験・解説			2				
学科問題模擬試験⑩・解説			2				
学科問題模擬試験⑪・解説			2				
学科問題模擬試験⑫・解説			2				
⑩⑪⑫ランダム模擬試験・解説			2				
①②③④⑤⑥ランダム模擬試験・解説			2				
⑦⑧⑨⑩⑪⑫ランダム模擬試験・解説			2				
①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫ランダム模擬試験・解説			2				
合 計			40				
時間外学習について							
模擬試験で80点以上取れるよう復習をすること。 模擬試験のやり直しを提出をする。							
成績評価の方法及び評価割合について							
模擬試験・定期試験の結果及び出席率による総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満はD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	診療報酬試験対策講座		担当教員名	長尾 雄二		□ 実務経験	
学科名	医療情報	学科	学年	3	単位数(時間数)	3単位(60時間)	
実施時期	4月～10月	授業形態	講義	演習	○	実習	実技
教科書 及び参考書	診療点数早見表2020年4月版(医学通信社) 診療報酬請求事務能力認定試験受験対策と予想問題集2021前期版 医科サポートブック(ソラスト) レセプト作成マニュアル集2021 前期版(医学通信社)						
授業の概要とねらい							
診療報酬請求事務能力認定試験の模擬試験。 3時間連続で学科問題、実技問題(外来・入院レセプト)を解く。 解説では、間違いの多かった部分を重点的に補足説明し、診療報酬に対する知識を深めてもらう。							
到達目標							
診療報酬請求事務能力認定試験に合格する。							
授業計画							
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
第1回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験/説明(学科/外来/入院)				3	診療報酬請求事務能力認定試験 過去問題集から出題する。 学科問題/外来問題/入院問題すべて、他の講座で使用した問題を模擬試験の範囲とする。 模擬試験の合格ラインは各科目とも80点とする。		
第2回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験(学科/外来/入院)				3			
第3回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験(学科/外来/入院)				3			
第4回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験(学科/外来/入院)				3			
第5回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験(学科/外来/入院)				3			
第6回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験(学科/外来/入院)				3			
第7回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験(学科/外来/入院)				3			
第8回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験(学科/外来/入院)				3			
第9回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験(学科/外来/入院)				3			
第10回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験(学科/外来/入院)				3			
第11回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験(学科/外来/入院)				3			
第12回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験(学科/外来/入院)				3			
第13回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験(学科/外来/入院)				3			
第14回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験(学科/外来/入院)				3			
第15回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験(学科/外来/入院)				3			
第16回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験(学科/外来/入院)				3			
第17回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験(学科/外来/入院)				3			
第18回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験(学科/外来/入院)				3			
第19回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験(学科/外来/入院)				3			
第20回 診療報酬請求事務能力認定試験 模擬試験(学科/外来/入院)				3			
合 計				60			
時間外学習について							
各模擬試験のレセプトのやり直し及び学科問題の正誤ノートの作成を行い、提出すること。							
成績評価の方法及び評価割合について							
模擬試験の結果及び出席率の総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満はD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	医学医療演習B			担当教員名	中島 千春		<input type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	医療情報		学科	学年	3	単位数(時間数)	1単位(28時間)	
実施時期	4月	～	10月	授業形態	講義	△	演習	○
教科書 及び参考書								
授業の概要とねらい								
医療情報技師能力検定の医学医療科目対策として実施する。 過去問題を解いた後、解説を行う。また、繰り返し問題演習を行うことで、知識を定着させる。								
到達目標								
医療情報技師能力検定試験に合格する。								
授業計画								
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
過去問題①+確認テスト					4	過去問題は 問題を解く(1時間) 解説(2時間) 確認テスト(1時間) の計4時間を1セットとし、4回実施する。 確認テストは70点以上を合格とし、70点未満は追 試験を実施する。		
過去問題②+確認テスト					4			
過去問題③+確認テスト					4			
過去問題④+確認テスト					4			
過去問題⑤+確認テスト					4			
模擬試験(全8回)					8	模擬試験は70点以上を合格とし、 不合格の場合は、後日、追試験を実施する。		
医療情報技師能力検定試験								
合 計					28			
時間外学習について								
確認テストおよび模擬試験で70点以上となるように復習をすること。								
成績評価の方法及び評価割合について								
検定試験、模擬試験及び確認テストの結果並びに出席率による評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。なお、出席率80%未満の場合はD(不可)とする。								
その他(科目と実務経験との関連性について)								

科目名	医療情報処理演習B			担当教員名	長尾 雄二		<input type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	医療情報		学科	学年	3	単位数(時間数)	1単位(28時間)	
実施時期	4月	～	9月	授業形態	講義	△	演習	○
教科書 及び参考書								
授業の概要とねらい								
医療情報技師能力検定の医療情報システム科目対策として実施する。 過去問題を解いた後、解説を行う。また、繰り返し問題演習を行うことで、知識を定着させる。								
到達目標								
医療情報技師能力検定試験に合格する。								
授業計画								
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
過去問題演習①+確認テスト					4	過去問題は 問題を10問づつ解き解説(全50問を3時間) 確認テスト(1時間) の計4時間を1セットとし、5回実施する。 確認テストは70点以上を合格とし、70点未満は追 試験を実施する。		
過去問題演習②+確認テスト					4			
過去問題演習③+確認テスト					4			
過去問題演習④+確認テスト					4			
過去問題演習⑤+確認テスト					4			
模擬試験(全8回)					8	模擬試験は70点以上を合格とし、 不合格の場合は、後日、追試験を実施する。		
医療情報技師能力検定試験								
合 計					28			
時間外学習について								
確認テストおよび模擬試験で70点以上となるように復習をすること。								
成績評価の方法及び評価割合について								
検定試験、模擬試験及び確認テストの結果並びに出席率による総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満はD(不可)とする。								
その他(科目と実務経験との関連性について)								

科目名	医療情報システム演習B		担当教員名	堤 明裕		<input type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	医療情報	学科	学年	3	単位数(時間数)	2単位(40時間)	
実施時期	4月～9月	授業形態	講義	△	演習	○	実習
教科書 及び参考書	医療情報 第6版 医療情報システム編						
授業の概要とねらい							
医療情報技師能力検定の医療情報システム科目対策として実施する。 過去問題を解いた後、解説を行う。また、繰り返し問題演習を行うことで、知識を定着させる。							
到達目標							
医療情報技師能力検定試験に合格する。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
過去問題①+確認テスト			4	過去問題は 問題を10問づつ解き解説(全50問を3時間) 確認テスト(1時間) の計4時間を1セットとし、5回実施する。 確認テストは70点以上を合格とし、70点未満は追 試験を実施する。			
過去問題②+確認テスト			4				
過去問題③+確認テスト			4				
過去問題④+確認テスト			4				
過去問題⑤+確認テスト			4				
過去問題⑥+確認テスト			4				
過去問題⑦+確認テスト			4				
過去問題⑧+確認テスト			4				
模擬試験(全8回)			8	模擬試験は70点以上を合格とし、 不合格の場合は、後日、追試験を実施する。			
合 計			40				
時間外学習について							
確認テスト及び模擬試験を行うので復習、試験対策を行うこと。							
成績評価の方法及び評価割合について							
検定試験、模擬試験及び確認テストの結果並びに出席率による総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満はD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

シラバス

作成日

2021.04.01

科目名	医療情報試験対策講座Ⅱ			担当教員名	中島千春・堤明裕・長尾雄二			<input type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	医療情報		学科	学年	3	単位数(時間数)	1単位(25時間)		
実施時期	8月	～	8月	授業形態	講義	演習	<input type="checkbox"/>	実習	
教科書 及び参考書	過去問題								
授業の概要とねらい									
医療情報技師能力検定の対策授業を行う。 医療情報技師能力検定の模擬試験を実施する。									
到達目標									
医療情報技師能力検定試験に合格する。									
授業計画									
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
第1回 集中対策講座					3	8月の試験前集中対策講座を行う。			
第2回 集中対策講座					3				
第3回 集中対策講座					3	3分野について実施する。 (医学医療8コマ、情報処理8コマ、システム9コマ)			
第4回 集中対策講座					3				
第5回 集中対策講座					3	分野ごとに			
第6回 集中対策講座					3	・模擬試験(解答、解説配布)			
第7回 集中対策講座					3	・模擬試験+解説			
第8回 集中対策講座					4	・解説のみ の3パターンで行なう。			
合 計					25				
時間外学習について									
模擬試験の予習、誤答問題の復習をすること。									
成績評価の方法及び評価割合について									
模擬試験(3分野)の合計点・検定試験の結果及び出席率による総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満はD(不可)とする。									
その他(科目と実務経験との関連性について)									

科目名	DPC基礎			担当教員名	小田原 香織			<input type="checkbox"/> 実務経験						
学科名	医療情報		学科	学年	3		単位数(時間数)	1単位(20時間)						
実施時期	4月	～	10月	授業形態	講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習	<input type="checkbox"/>	実技	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	DPC講座テキスト1、テキスト2 DPC講座算定表													
授業の概要とねらい														
DPCによる包括評価制度への知識を深めること。DPCの全体像を理解し、算定方法とレセプト作成・点検について詳しく学習する。														
到達目標														
DPCによる包括評価制度を理解し、診断群分類決定までの流れ及び定義テーブルやツリー図の解釈が出来るようになること。 DPC様式のレセプトを使用した医療費計算が出来るようになること。														
授業計画														
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)								
DPCの概要					1	最初にDPCの概要と請求までの流れを出来高の場合の算定方法と比較しながら学習する。 次に診断群分類の決定がどのように行われるのか、手順を教える。 定義テーブルおよびツリー図の解釈が算定に関わってくるので、重点的に教える。 DPC包括評価部分の診療報酬とDPC出来高評価部分の診療報酬の算定方法を一通り学んだのち、練習問題を解きながらDPC包括評価の理解を深める。 DPC専用のレセプトの各部の名称と役割を理解し、記載できるように練習問題を繰り返し解く。								
請求までの流れ					1									
診療報酬の算定(診断群分類の決定までの流れ)					1									
診療報酬の算定(定義テーブルやツリー図の解釈)					2									
DPC包括評価部分の対象行為とDPC出来高評価部分の対象行為					2									
DPC包括評価部分の診療報酬(所定点数)					1									
DPC包括評価部分の診療報酬(所定点数の減算)					2									
DPC包括評価部分の診療報酬(医療機関別係数)					1									
DPC包括評価部分の診療報酬(診療報酬)					2									
DPC出来高評価部分の診療報酬					2									
食事療養費					1									
確認テスト(レセプト作成)/解説					2									
確認テスト(レセプト点検)/解説					2									
合 計					20									
時間外学習について														
教科書で予習と復習をすること。														
成績評価の方法及び評価割合について														
確認テスト・定期試験の結果及び出席率による総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満はD(不可)とする。														
その他(科目と実務経験との関連性について)														

科目名	臨床医学論			担当教員名	中島 千春			<input type="checkbox"/> 実務経験		
学科名	医療情報		学科	学年	単位数(時間数)			1単位(25時間)		
実施時期	9 月	～	10 月	授業形態	講義	<input type="radio"/> 演習	<input type="checkbox"/> 実習	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> は主、 <input type="checkbox"/> は併用	
教科書 及び参考書										
授業の概要とねらい										
<p>診療録の記載内容・各診療科の流れを理解し、医療情報システムを管理・運用する際に役立てる。 また医療情報技師は、診療情報管理士の仕事にも関わりが深いため、「診療情報管理士試験」と「医療情報技師能力検定の医学医療分野」で重複する「基礎課程(基礎・医学編)」を学ぶ。</p>										
到達目標										
診療情報管理士試験の「基礎課程」である「基礎・医学編」を理解する。										
授業計画										
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
医療概論					3	各項目(各論)の問題プリントを解き、解答と解説を作成する。 (医学医療のテキストまたはインターネットを使用し、解く。) 作成した解答・解説は提出する(採点をして返却する)。 解答・解説が違っていた場合は、調べなおし、再提出する。				
人体構造・機能					4					
臨床医学総論 外傷学					2					
臨床医学総論 先天異常等					2					
臨床医学各論 循環器系					2					
臨床医学各論 呼吸器系					2					
臨床医学各論 消化器系					2					
臨床医学各論 泌尿器系					2					
臨床医学各論 血液・代謝・内分泌					2					
臨床医学各論 新生物					4					
合 計					25					
時間外学習について										
各論ごとの解答・解説を作成し、提出すること。										
成績評価の方法及び評価割合について										
各論ごとの解答・解説の提出率及び出席率で評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。なお、出席率80%未満や解答・解説が未提出の場合はD(不可)とする。										
その他(科目と実務経験との関連性について)										

科目名	医事コンピュータ実習		担当教員名	中島 千春		□ 実務経験	
学科名	医療情報	学科	学年	3	単位数(時間数)	1単位(42時間)	
実施時期	4月～10月	授業形態	講義	演習	実習	○	実技
教科書 及び参考書	「レセプト作成マニュアル集」 「医科サポートブック」						
授業の概要とねらい							
現在、レセプトコンピュータは医療機関にとって必須となっている。そのため、医療機関で使われているレセプトコンピュータ(ORCA(オルカ)システム)を使用して、操作方法や入力方法を学習し、実際に使えるようになることを目指す。							
到達目標							
どのような診療内容でも、自分の力で入力し診療報酬の算定が正しくできること。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
①日医標準ORCA(オルカ)システムの説明			1	①ORCAシステムの起動から終了までを説明・実施。			
患者登録練習・受付・患者紹介・予約			2				
②<基本診療料>入力練習			2	②症例外来患者1名の1日分のレセプトを作成する。各区分の入力方法・説明を行い、作成練習をする。			
<投薬>入力練習			3				
<注射>入力練習			3	③症例外来患者1名の1か月分のレセプトを作成し、印刷する。印刷したレセプトの解説をする。入力方法および請求点数の答え合わせ(○付け)を行い、提出する。			
<処置>入力練習			3				
<検査>入力練習			3				
<画像>入力練習			3				
<手術・麻酔>入力練習			3				
<リハビリテーション>入力練習			2				
③レセプト作成			15				
④日常業務・マスタ登録とデータチェック			2	④医療事務のスキルアップとしてマスタ登録の仕方とデータチェック方法を学ぶ。			
合 計			42				
時間外学習について							
②では、学習した診療区分の練習を行い、覚えること。③では、レセプト入力の誤った箇所のやり直しを行い、印刷して提出すること。							
成績評価の方法及び評価割合について							
レセプトの出来(正解と同等)および出席率による総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が95点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満のものと③の未提出者はD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	電子カルテ実習		担当教員名	長尾 雄二		<input type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	医療情報	学科	学年	3	単位数(時間数)	1単位(47時間)	
実施時期	4月～10月	授業形態	講義	演習	実習	<input type="checkbox"/>	実技
教科書 及び参考書	レセプト作成マニュアル集 診療報酬早見表 医科サポートブック						
授業の概要とねらい							
現在、レセプトは電子化されておりレセプトコンピュータは医療機関にとって必須となっている。また、それに伴い電子カルテシステムも年々導入が進んでいる。そこで医療機関で使われている電子カルテシステムを使用し操作方法や入力方法について学習する。							
到達目標							
電子カルテシステムの操作・入力ができるようになる。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
電子カルテソフト(DDTOP)基本操作説明			3	電子カルテシステムの操作方法・入力手順の学習を行う。 レセプトコンピュータとの連携について学習を行う。 説明した内容はメモをとること。			
電子カルテソフト(DDTOP)診療行為の操作説明			3				
電子カルテソフト(DDTOP)診療行為の操作説明(シエマ画像)			3				
電子カルテソフト(DDTOP)投薬・注射入力練習			3				
電子カルテソフト(DDTOP)処置・手術の入力練習			3				
電子カルテソフト(DDTOP)傷病名の登録・転帰欄の操作説明および入力練習			3				
電子カルテソフト(DDTOP)メンテナンス等の説明			3				
レセプト作成の問題集でのレセプト・電子カルテ作成(第1回)			3				
レセプト作成の問題集でのレセプト・電子カルテ作成(第2回)			3				
レセプト作成の問題集でのレセプト・電子カルテ作成(第3回)			3				
レセプト作成の問題集でのレセプト・電子カルテ作成(第4回)			3				
レセプト作成の問題集でのレセプト・電子カルテ作成(第5回)			3				
レセプト作成の問題集でのレセプト・電子カルテ作成(第6回)			3				
レセプト作成の問題集でのレセプト・電子カルテ作成(第7回)			3				
レセプト作成の問題集でのレセプト・電子カルテ作成(第8回)			3				
レセプト作成の問題集でのレセプト・電子カルテ作成(第9回)			3				
レセプト作成の問題集でのレセプト・電子カルテ作成(第10回)			3				
レセプト作成の問題集でのレセプト・電子カルテ作成(第11回)			3				
レセプト作成の問題集でのレセプト・電子カルテ作成(第12回)			3				
合 計			57	外来カルテの問題を使用し入力を行う。 医療事務員に必要な診療点数算定の知識・カルテの読解力を深める。 操作方法や入力時の注意点などを分かりやすくまとめてノートに整理し、期日までに提出すること。			
時間外学習について							
授業中にメモした内容をノートに整理して分かりやすくまとめること。							
成績評価の方法及び評価割合について							
提出物及び出席率で総合評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が95点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満はD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	プレゼンテーション			担当教員名	中島 千春			<input type="checkbox"/> 実務経験					
学科名	医療情報		学科	学年	3		単位数(時間数)	1単位(42時間)					
実施時期	4月	～	10月	授業形態	講義		演習		実習	<input type="checkbox"/>	実技		<input type="checkbox"/> は主、△は併用
教科書 及び参考書													
授業の概要とねらい													
パワーポイントの作成からプレゼンテーションの実施までを行う。効果的なプレゼンテーション(聞き手にきちんと聞こえる声で、分かりやすい言葉を使い、伝えたい目的が分かる表現力)を身に付け、実践する。													
到達目標													
自分で構成を考え、ストーリーを作成できること。効果的なプレゼンテーションができるようになること。													
授業計画													
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)							
プレゼンテーションとは					1	5つの課題について、発表し、評価する。 課題1は、2～3名のペアを組み、紹介する相手のインタビューを実施したあと口頭での発表とする(1人5分間)。 パワーポイントの作成方法と操作を学ぶ。 以降の課題はパワーポイントを使ってプレゼンテーションを行う。 課題2は、自己紹介(1人5分間)。 課題3は、テーマに沿った内容とタイトルを各自で考え、構成し、発表する(1人10分間)。 課題4, 5は、各自が考えた提案内容を、根拠となるデータをもとに構成し、発表する(1人10分間)。							
課題1 他人紹介					6								
パワーポイントの作成方法・操作方法					3								
課題2 自己紹介					6								
課題3 みんなへ伝えたいこと					8								
課題4 学校へ提案したいこと					8								
課題5 私たちを取りまく現状の問題提起と解決策					10								
合 計					42								
時間外学習について													
発表の時までに事前準備(資料作成などの)や発表練習を行うこと。													
成績評価の方法及び評価割合について													
発表は①内容(構成)、②発表の仕方(声の大きさ・目線)、③制限時間で発表点を付ける。発表点と出席率による総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満のものはD(不可)とする。													
その他(科目と実務経験との関連性について)													

科目名	卒業研究			担当教員名	小田原・長尾・堤・中島			□ 実務経験		
学科名	医療情報		学科	学年	3	単位数(時間数)	7単位(280時間)			
実施時期	11月	～	1月	授業形態	講義	演習	実習	○	実技	○は主、△は併用
教科書及び参考書	各自の卒業研究テーマに沿った文献									
授業の概要とねらい										
医療ビジネス学科で学んできた中で、もっと深く知りたいと感じたもの、または、みんなに知ってもらいたいと感じていたものを研究テーマとし、そのテーマを狭く深く探求し論文にまとめる。また、それを発表という形で表現する。										
到達目標										
根拠あるデータを基に、自分の考えを限られた時間内にまとめて、分かりやすく説明することを目標とする。										
授業計画										
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
卒業研究テーマ決め					30	卒業研究として探求したい題材を探す。 ・教科書 ・文献 ・インターネットを使用				
卒業研究概要書の作成					30	決定したテーマ(題材)の結論(仮説)を立てる。 その結論に至るまでの流れを概要書に書き、提出する。 概要書について、内容に矛盾点や記載不備がある物については担任から指導を受け、再度提出すること。				
論文作成					85	概要書を基に、論文を作成する。(最低20枚とする) ※論文について、根拠となるデータがないものは論文として認められないため不合格(再提出)となるか、概要書からやり直しとする。				
発表準備(スライド(作品)作成)					60	論文を基に、発表準備を行う。 発表のための資料として、スライド(PowerPoint)を作成する。				
学科内発表					75	卒業研究内容を、スライドを使用して発表する。 ※発表時間は1人10分とする。 授業に携わっているすべての職員が評価を行う。 ・内容 ・スライドの見やすさ ・話し方、態度 ・声の大きさ ・質問事項への回答 合格するまで何度も手直し、作り直し、発表をする。				
合 計					280					
時間外学習について										
提出期限に間に合わない場合は、全ての工程において(テーマ、概要書、論文、作品作成、発表)時間外学習となる。										
成績評価の方法及び評価割合について										
論文および発表資料(PowerPoint作品)を提出・発表した者に対し、研究内容・発表態度及び出席率で評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や卒業研究に関する資料が未提出の場合はD(不可)とする。										
その他(科目と実務経験との関連性について)										

科目名	病院実習			担当教員名	小田原 香織		<input type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	医療情報		学科	学年	3	単位数(時間数)		
実施時期	随時	授業形態	講義	演習		実習		実技 <input type="checkbox"/> ○ ○は主、△は併用
教科書 及び参考書								
授業の概要とねらい								
<p>内定先の医療機関において実習を行い、業務内容を正確に覚え実践し、入職後業務に活かせるようになること。</p>								
到達目標								
<p>医療事務員として、円滑に業務をこなせるようになる。</p>								
授業計画								
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
<ul style="list-style-type: none"> ・実習時間内に、指示された業務を行う。 ・毎日の実習内容を午前と午後に分けて日誌に記入する。 ・実習日ごとに本人のコメントを記入する。 ・実習担当者に日誌を提出し、担当者の所見を記入してもらう。 ・1週間に一回、実習責任者からのコメントを記入してもらう。 <ul style="list-style-type: none"> ・実習責任者から二回、早期実習評価表を作成して提出してもらう。 <ul style="list-style-type: none"> ・11月1日より、実習を行いながら卒業論文の制作を行う。 (卒業論文の提出期限は12月の中旬とする。) 					<ul style="list-style-type: none"> ・実習日には必ず日誌を記入しまとめ、登校日に日誌の提出を行う。 ・登校日に担任と面談を行い、日誌や早期実習評価表に記載されている担当者の所見に着目し、指摘があった部分に対して、どのように改善していけばよいか考える。 ・実習日を出席日数に換算する。 ・日誌の未提出は認められない。 			
合 計								
時間外学習について								
成績評価の方法及び評価割合について								
<p>実習日誌・実習先からの評価及び出席率で評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や実習日誌及び卒業論文が未提出の場合はD(不可)とする。</p>								
その他(科目と実務経験との関連性について)								